

平成17年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成16年8月9日

会社名 新コスモス電機株式会社

（コード番号：6824 登録銘柄）

（URL <http://www.new-cosmos.co.jp/>）

代表者 役職名 代表取締役社長

氏名 重盛徹志

問い合わせ先 責任者役職名 経理財務部長

氏名 前條忠則

TEL：（06）6309-1502

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 （内容）
 ・法人税等の計上基準及びその他一部については、簡便的な方法を採用しております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無
- ④ 当四半期は「四半期財務・業績の概況」を初めて開示（売上高を除く）するため、前年同四半期数値及び前年同期比を記載しておりません。

2. 平成17年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成16年4月1日～平成16年6月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

（百万円未満切捨）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期（当期）純利益 | |
|-------------|--------|-------|-------|---|-------|---|------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 17年3月期第1四半期 | 3,242 | △10.1 | 152 | — | 174 | — | 106 | — |
| 16年3月期第1四半期 | 3,607 | — | — | — | — | — | — | — |
| （参考）16年3月期 | 15,503 | | 1,743 | | 1,778 | | 1,067 | |

| | 1株当たり四半期 （当期）純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり四半期 （当期）純利益 |
|-------------|---------------------|--------------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 17年3月期第1四半期 | 8 45 | — |
| 16年3月期第1四半期 | — | — |
| （参考）16年3月期 | 81 55 | — |

（注）売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期における当社グループ（当社及び連結子会社）は、お客様志向での新商品開発、営業・サービス体制及び品質管理体制の強化をはかるため、インダストリー事業部、リビング事業部、海外事業部、センサ事業部による事業部制での活動を開始し、主力のガス警報器・ガス検知器の積極的な販売活動を展開してまいりました。

売上高につきましては、工業用定置式ガス検知警報器は中国圏をはじめ国内でも伸びましたが、都市ガス用警報器が更新需要の停滞期に入ったこと等により、売上高は前年同期比10.1%減の32億4千2百万円となりました。

利益につきましては、売上高減の影響で、営業利益は1億5千2百万円、経常利益は1億7千4百万円となりました。また、第1四半期純利益は1億6百万円となりました。

商品別の概況は以下のとおりであります。

・家庭用ガス警報器

都市ガス用につきましては、火災警報機能付商品の販売は堅調に推移しましたが、更新需要が停滞期に入ったことにより既存商品が伸び悩みました。また、主要取引先の在庫調整の影響もあり、売上高は前年同期を下回りました。

L Pガス用につきましては、交換期限切れの更新が依然として停滞しましたが、OEM商品を中心に拡販に努めた結果、売上高は前年同期を上回りました。

・工業用定置式ガス検知警報器

産業界における設備投資回復と堅調な更新需要に加え、昨年来のガス関連事故発生に伴う保安見直しが進んだことにより、売上高は前年同期を上回りました。特に、半導体業界等特殊ガス分野では、活発な設備投資を背景に新商品「P S－7型」を中心に販売活動を展開した結果、海外を中心とした大型新設物件の受注と新規開拓が進み大幅に売上高を伸ばしました。

・業務用携帯型ガス検知器

エネルギー市場再編の中で主力のガス検知器が堅調に推移し、当第1四半期は前年同期並みの売上高となりました。なお、6月後半に半導体業界・研究機関向けに新商品「X P S－7型」を発売し好評を得ています。

(2) 財政状態の変動状況

(百万円未満切捨)

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 |
|-------------|--------|--------|--------|-----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 17年3月期第1四半期 | 19,287 | 15,454 | 80.1 | 1,230 47 |
| 16年3月期第1四半期 | — | — | — | — |
| (参考) 16年3月期 | 19,966 | 15,579 | 78.0 | 1,237 02 |

【連結キャッシュ・フローの状況】

(百万円未満切捨)

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期末残高 |
|-------------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 17年3月期第1四半期 | 337 | △223 | △191 | 7,934 |
| 16年3月期第1四半期 | — | — | — | — |
| (参考) 16年3月期 | 1,527 | △301 | △162 | 8,011 |

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期末における総資産は、前連結会計年度末に比べて6億7千9百万円減少して192億8千7百万円となりました。

これは主に、たな卸資産の増加3億7千2百万円があったものの、現金及び預金の減少1億9百万円及び売上債権の減少10億1百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて5億5千3百万円減少して37億7千万円となりました。

これは主に、未払法人税等の減少3億3千7百万円及び仕入債務の減少1億9千万円によるものであります。

自己資本は、前連結会計年度末に比べて1億2千5百万円減少して154億5千4百万円となりました。

これは利益剰余金の減少によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当四半期連結会計期間における現金及び現金同等物は、営業活動において増加したものの、投資活動及び財務活動において減少し、前連結会計年度末に比べ7千7百万円(1.0%)減少して79億3千4百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、3億3千7百万円となりました。

これは主に、法人税等の支払い3億9千8百万円及びたな卸資産の増加3億7千2百万円があったものの、税金等調整前四半期純利益1億6千7百万円及び売上債権の減少10億1百万円並びに賞与引当金の増加1億6千4百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果流出した資金は、2億2千3百万円となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出2億3千万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果流出した資金は、1億9千1百万円となりました。

これは主に、配当金の支払い1億8千8百万円によるものであります。

[参考]

平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----|--------|-------|-------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 中間期 | 7,300 | 530 | 320 |
| 通期 | 15,400 | 1,460 | 900 |

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 71円66銭

※ 上記予想は、現時点で得られた情報に基づき算定しておりますが、実際の業績は、業況の変化などにより、大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

[業績予想に関する定性的情報等]

第1四半期の業績は予定通り推移しており、平成16年5月21日に公表しました業績予想に変更はありません。